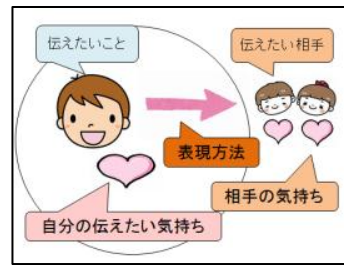
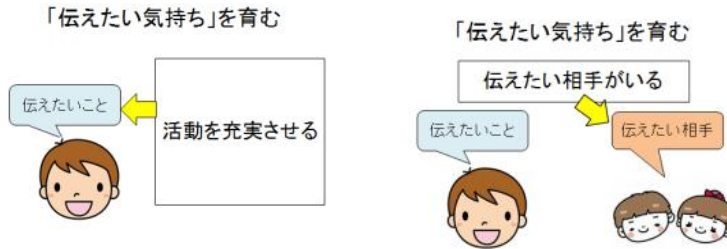


10 「表現する力」について



(1) 伝えたい気持ちを育む

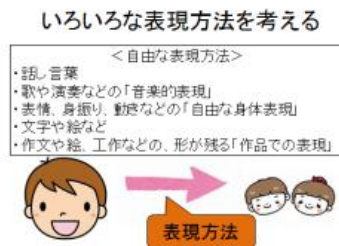
児童生徒の表現する力を育むためには、「表現方法」について授業の中で練習するといったアプローチも大事かと思いますが、まずは児童生徒が「伝えたい！」と思えるような毎日の生活を送っているか？という視点も大事です。生活や学習ひとつひとつに意欲と達成感をもつことができるようにしたいと考えます。



このような児童生徒の「活動の充実」があり、さらに「伝えたい相手」がいることで、活動の中で感じた自分の喜びや感動を何とかして伝えるのだと考えます。そして児童生徒は、相手と喜びを共有することで、さらに伝えたい、表現したいと意欲を増すのだと考えます。

(2) いろいろな表現方法を考える

表現することの目的は、相手に伝えることです。そのための方法はいろいろあってかまわないと思います。それは、話し言葉かもしれないし、生き生きとした表情や動きだけでも十分に伝わることも多いと考えます。



もちろん一つの方法に限らず、いくつかを組み合わせ、相手に伝わるようにあの手この手で伝えようとするのだと考えます。

表現の場面で考えると、「国語」の場面であれば、発表や作文かもしれませんが、「音楽」の場面であれば、歌や楽器、身体表現かもしれませんが、「美術」の場面であれば、絵画や作品といった形の残るものかもしれませんが。いろいろな場面での、いろいろな表現を認めて評価して行きたいと考えます。

(3) 相手の気持ちを想像する

とくに友達関係や卒業後の職場といった場面を考えると、自分の一方的な表現や伝えたいという思いが上手く行かないこともあるかと思えます。自分の伝えたいという気持ちはとても大事なのですが、伝える相手の気持ちも大事です。相手の表情や行動から気持ちを想像して、できれば同じくらい大きさ・重さでの気持ちのやりとりができればいいかなと思います。とても難しいことです。だからこそ、気持ちが通い合うということは大切なことですし、嬉しいものだと考えます。

